

漁況予報 い わ し

第189号

【2015年5～6月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概 況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、3月は15トンと西湘地区を中心に大羽マイワシの来遊があった前年(300トン)及び平年^{※1}(98トン)を大きく下回りました。4月は一転して好漁傾向となり186トン(速報値)で、不漁の前年(3トン)及び平年(100トン)を大きく上回りました。

まき網は、東京湾側で漁獲がなく、相模湾側では4月に1ヶ統が7トン程度水揚げをするに留まりました。

魚体は、2ヶ月とも被鱗体長^{※2}(以下同)13-14cmの小羽マイワシ主体で2014年生まれの1歳魚主体でした。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総水揚げ量は、3月は360トンで、前年(250トン)を上回り平年(330トン)並でした。4月は330トン(速報値)で、前年(165トン)及び平年(224トン)を上回りました。

鴨居地区及び佐島地区(1ヶ統)のまき網は餌イワシとして断続的に漁獲し、佐島地区(1ヶ統)では2ヶ月計110トンの水揚げがありました。魚体は、9-10cmの小型成魚主体に12-13cmの大型成魚が混じりました。

【シラス】

相模湾のシラス漁は3月11日に解禁となりましたが、3月中は相模湾内の水温が昨年同様、平年と比べ1～2℃低く推移したこともあり、シラスの来遊に不向きな状況が続き、全域で殆ど漁獲がなく推移しました。4月に入ると平塚以西では好漁傾向となりましたが、三浦～茅ヶ崎地区では引き続き不漁が継続しました。このような相模川を境とした西高東低の漁模様は2012年以来のことです。不漁の原因としては、①黒潮がC型基調で特に相模湾東側への効果的な暖水波及が少なかったこと、②水温が低かったこと、③カタクチイワシ成魚が沿岸に多くいたこと等が考えられます。

3月から4月中旬の漁獲物はマイワシシラス(マイワシ仔魚)主体でしたが、4月下旬にはカタクチシラス(カタクチイワシ仔魚)主体になってきました。

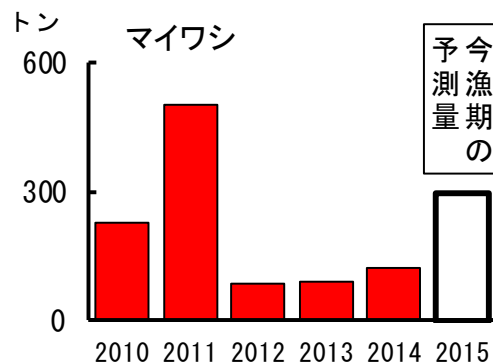
= 予 報 =

過去5年の5・6月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2014年生まれの小羽マイワシ（13～15cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、3～4月の県内主要定置網の漁獲量から、前年を大きく上回る約295トンと予測されます。



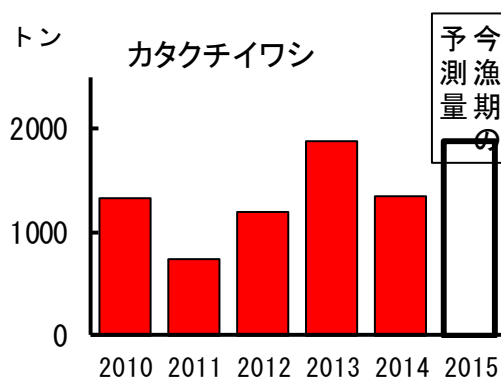
※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、小型成魚（9～11cm）が漁獲の主体となり、これに大型成魚（12～14cm）が混じるでしょう。

今漁期は、2011年を除き安定して1,000トンを超えています。

今漁期の水揚げ量は、前年をやや上回る約1,880トンと予測されます。

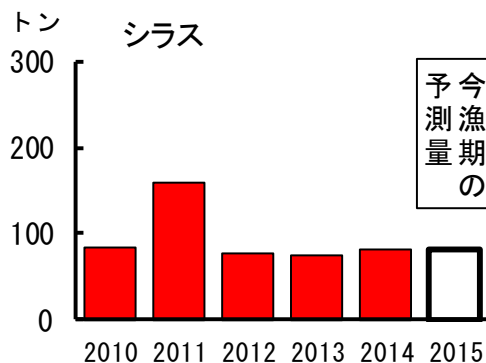


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

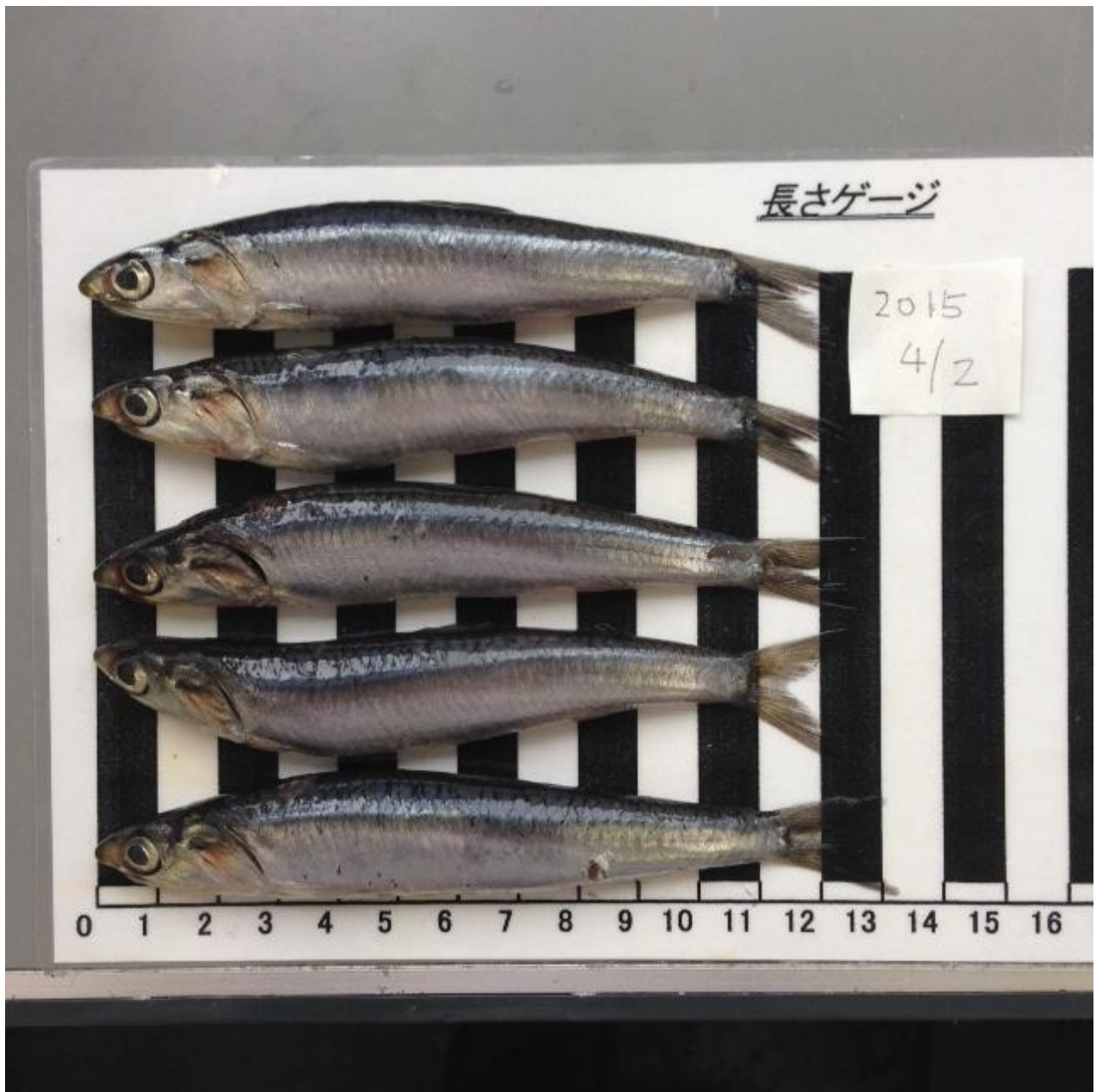
【シラス】

今漁期は、4月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年並の約82トンと予測されますが、引き続きカタクチイワシ成魚が漁場に滞留し続けた場合は、予測値をさらに下回ることも考えられます。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046) 882-2313



2015年4月2日に相模湾の定置網に入網したカタクチイワシ
(体型が寸胴で肥満度が高く、脂分が多いことから東京湾産ではないかと思われる)